

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 7名回答、回答率 100%
保護者様： 26名回答、回答率 83.8%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・壁やトイレのドアに穴が空いているが、テープなどで補強している。個別の部屋はないが、パーテーションを使い、クールダウンの場を作っている。
- ・トイレや手洗い時には、踏み台を使用して対応している。
- ・法令上の人員体制は組めている。送迎の時間や曜日によっては職員配置が十分ではないと感じる場面があるため、更なる工夫が必要である。

○業務改善

- ・業務前MTGは行っているが、業務後のMTGの時間を確保することが難しい。その為、業務後に出た話は次の日の業務前MTGで共有し、全指導員が共通認識を図れるようにしている。
- ・階層別研修や虐待防止研修等の取り組みを定期的に行い、研修を受講した担当職員が全職員に共有している。

○適切な支援の提供

- ・個別支援計画を全員が確認できている。また、その日の個別の目標を指導員が確認できるよう送迎表の裏に記載したり、子どもたちも確認できるようにホワイトボードに見える化するなど、適切な支援に繋げている。
- ・活動プログラムが固定化しないように、活動内容を全職員が担当して行っている。
- ・子どもが自己選択や自己決定をする力を育むために、二択形式を活用している。

○関係機関や保護者との連携

- ・学校や相談支援事業所、他事業所、児童相談所等との担当者会議を実施。情報共有をし、課題点や方向性の統一を図った。時間に限りがあり、全ての児童に対しては行えなかった。
- ・保護者様とは、送迎時やお迎え時などでご相談を聞いたり、その日の様子や支援内容などを情報共有している。

○保護者への説明責任等

- ・毎月のニュースレターで次月の活動予定をお知らせした。療育参観の実施案内をしたが、少ない希望で、実施ができなかった。
- ・送迎時に、一日の様子や行った支援、対応の内容について口頭での情報共有も行っている。

○非常時等の対応

- ・地震、火災、水害等を想定した避難訓練を月に1回全ての曜日で実施。防災館にも行き非常時の対応の身を持って体験する機会も設けた。虐待防止の教室内研修も定期的に行っている。
- ・研修にて受講した内容を、業務前ミーティングの場で全職員に共有している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・「実際に子どもが利用している状態での教室を見たことがないので、普段の使い勝手が分からない」や法人内他事業所も利用している保護者からは「教室に行ったことがないので、分からない」との意見もあった。
- ・職員配置については、約6割の方から「はい」の回答をいただいた。約3割の方から「わからない」の回答をいただいたため、周知方法については工夫を検討する必要がある。

○適切な支援の提供

- ・「事業所に通うようになってから、子どもの成長が明らかに良い方に向いているのを実感している」という意見があったり、適切な支援がされているという項目に沢山の「はい」を頂けた。一方で、「地域の他の子どもとの交流はない」との意見もあった。
- ・個別支援計画についての質問に対して、ほぼすべての保護者様から評価をいただいた。

○保護者への説明等

- ・個人情報の取扱いに関しては100%で「はい」を頂いた。一方で、父母の会や保護者の交流の部分では「わからない」や「あまり他の保護者との交流がない」と言った声が多くあった。
- ・「支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか」の質問に対して、9割以上の方から「はい」の回答をいただいた。

○非常時等の対応

- ・各マニュアルは保護者へ説明され、訓練も実施されていると96%が答えている。一方で、「怪我や事故の説明が不十分だった」との意見があった。報告、共有部分の工夫を検討する必要がある。

○満足度

- ・「支援に満足しているか」、「子どもは通所を楽しみにしているか」の質問に対して、9割以上の方から「はい」との回答をいただき、満足度が高いことがうかがえた。
- ・「毎日行きたいと言っている」や「帰ってくるたび凄く楽しかったと帰ってくる」「いつも迅速な対応をいただいている」「凄く大満足です」などの意見をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・公共交通機関を利用するなど、日常生活に繋がる課外活動の実施。
- ・職員のスキルアップのために、外部研修の受講や事業所内研修の機会を増やす。
- ・職員同士でコミュニケーションを密にとり、情報共有や交換することで療育の知識を深める。
- ・ブログの更新頻度を定めて定期的に更新し、療育や教室の様子を発信していく。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・公共交通機関を利用しての課外活動はできなかった。おつかい練習や昼食、おやつ購入を行い、日常生活に繋がる課外活動は実施できた。
- ・事業所内での事例検討を実施することができた。
- ・職員同士で得た情報を共有し合うことはできた。事故や怪我発生時の引継ぎはうまくいかなかった。
- ・定期的なブログの更新ができなかったため、定期的に更新していく。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・個別支援計画に基づいた個別課題の作成を行っている。
- ・子どもたちが楽しく取り組めるように、好きなキャラクターなど子ども一人ひとりの興味・関心に合わせた教材作りを行っている。
- ・活動が固定化しないように、各職員が企画して実施している。
- ・職員同士が密にコミュニケーションをとり、些細なことも情報共有することを心がけている。

○改善点

- ・事故や怪我発生時に報告、説明はおこなっているもののアンケート結果から不十分と感じさせてしまっているケースがあり伝え方の改善や工夫が必要。
- ・ブログの定期更新。
- ・保護者会を実施し、父母同士の交流の場の提供。
- ・療育参観を実施し、教室環境の周知。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・より安全な教室運営を行うために、それぞれの職員の教室内での役割や場面ごとの対応方法などを定期的に確認、改善をおこなう。
- ・保護者と利用者のニーズに沿った支援を行えるよう、療育の企画や個別課題の作成をおこなう。
- ・職員間でのコミュニケーションを密に取り、保護者への説明責任を果たしていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・定期的な振り返りやケース検討をおこない、支援の質の向上を図る。
- ・公共交通機関を利用するなど、日常生活に繋がる課外活動の実施していく。
- ・ブログの更新頻度を定めて定期的に更新し、療育や教室の様子を発信していく。
- ・事故や怪我が発生した際、こちらからのお伝えだけではなく、説明後に保護者へ疑問点や不安な点が無いかを確認するとともに、重ねて管理者より連絡をおこなうことで安心していただける情報共有をおこなう。